

## 4 死因分析

### (1) 死因別死亡確率

人はいずれ何らかの死因で死亡することになるが、生命表上で、ある年齢の者が将来どの死因で死亡するかを計算し、確率の形で表したものが死因別死亡確率である。

平成23年の死因別死亡確率をみると、0歳では男女とも悪性新生物で将来死亡する確率が最も高く、次いで、男は心疾患、肺炎、脳血管疾患、女は心疾患、脳血管疾患、肺炎の順になっている。65歳では0歳に比べ悪性新生物の死亡確率が低く、他の死因の死亡確率が高くなっており、75歳では更にこの傾向が強くなっている。一方、90歳では男で脳血管疾患の死亡確率が75歳より低くなっているが、女では脳血管疾患の死亡確率が75歳より高くなっている。

悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患の合計の死亡確率は、男で0歳、65歳、75歳で5割を超えているが、女では0歳、65歳、75歳、90歳のすべての年齢で5割を下回っている。

前年と比較すると、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患及び肺炎の各死亡確率は、男女とも0歳、65歳、75歳、90歳のすべての年齢で低くなっている。(図4、表7)

図4 死因別死亡確率（主要死因）

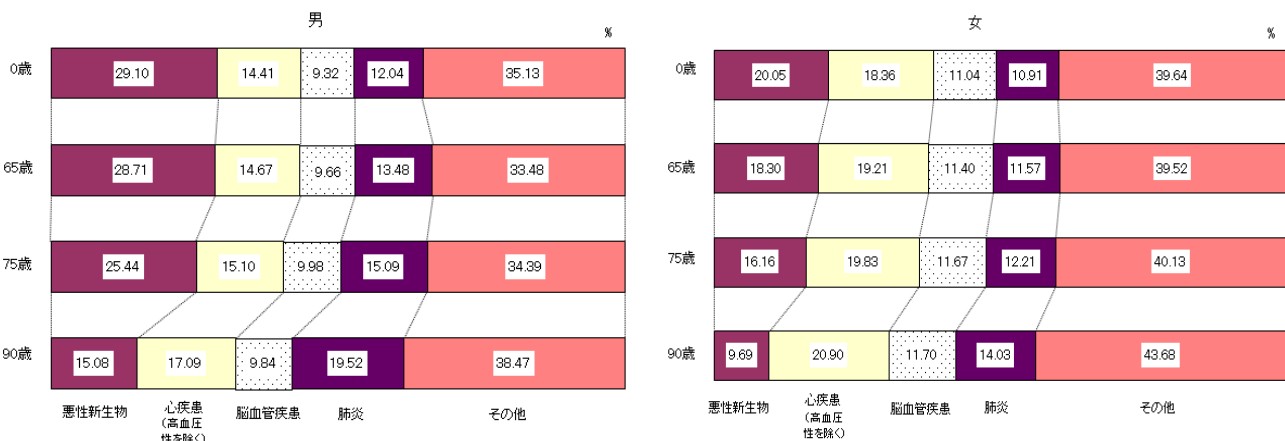


表7 死因別死亡確率（主要死因）の推移(0歳・65歳・75歳・90歳)

(単位: %)

主要死因	年齢	男					女				
		平成19年	20年	21年	22年	23年	平成19年	20年	21年	22年	23年
悪性新生物	0歳	30.10	29.98	29.90	29.76	29.10	20.56	20.49	20.63	20.53	20.05
	65	29.50	29.39	29.40	29.30	28.71	18.69	18.61	18.82	18.68	18.30
	75	26.00	25.94	26.12	26.04	25.44	16.49	16.39	16.63	16.50	16.16
	90	14.98	14.91	15.50	15.32	15.08	9.87	9.74	9.96	9.97	9.69
心疾患 (高血圧性を除く)	0歳	14.67	14.74	14.68	14.54	14.41	19.16	19.13	19.09	18.93	18.36
	65	14.97	15.00	14.93	14.81	14.67	19.97	19.93	19.87	19.72	19.21
	75	15.42	15.43	15.37	15.20	15.10	20.56	20.52	20.47	20.33	19.83
	90	17.27	17.41	17.25	17.19	17.09	21.42	21.51	21.53	21.34	20.90
脳血管疾患	0歳	10.80	10.42	10.08	9.77	9.32	13.29	12.75	12.11	11.50	11.04
	65	11.25	10.83	10.44	10.10	9.66	13.71	13.13	12.45	11.82	11.40
	75	11.71	11.24	10.79	10.44	9.98	14.06	13.45	12.73	12.08	11.67
	90	11.84	11.03	10.79	10.24	9.84	14.07	13.46	12.57	12.04	11.70
肺炎	0歳	12.53	12.50	12.20	12.13	12.04	11.84	11.74	11.35	11.19	10.91
	65	14.13	14.06	13.72	13.58	13.48	12.55	12.43	11.99	11.82	11.57
	75	15.98	15.85	15.39	15.22	15.09	13.28	13.13	12.65	12.45	12.21
	90	21.70	21.00	20.07	19.77	19.52	15.64	15.33	14.68	14.38	14.03
悪性新生物、 心疾患及び 脳血管疾患	0歳	55.57	55.14	54.65	54.07	52.83	53.02	52.36	51.84	50.97	49.45
	65	55.72	55.22	54.77	54.20	53.04	52.37	51.67	51.13	50.22	48.91
	75	53.13	52.61	52.28	51.68	50.52	51.11	50.35	49.82	48.92	47.65
	90	44.09	43.35	43.54	42.75	42.00	45.36	44.70	44.06	43.36	42.29

注:平成22年は完全生命表による。

(2) 特定死因を除去した場合の平均余命の伸び

ある死因が克服された場合、その死因によって死亡していた者は、その死亡年齢以後に他の死因で死亡することになる。その結果、死亡時期が繰り越され、平均余命が延びることになる。この伸びは、その死因のために失われた平均余命としてみることができ、これによって各死因がどの程度平均余命に影響しているかを測ることができる。

平成23年の特定死因を除去した場合の平均余命の伸びを主要死因についてみると、0歳における伸びは男女とも悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、肺炎の順、65歳における伸びは男では悪性新生物、心疾患、肺炎、脳血管疾患、女では悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、肺炎の順、75歳における伸びは男では悪性新生物、心疾患、肺炎、脳血管疾患、女では悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、肺炎の順になっている。一方、90歳における伸びは男では肺炎、心疾患、悪性新生物、脳血管疾患、女では心疾患、肺炎、脳血管疾患、悪性新生物の順になっており、悪性新生物の順位が低下している。

悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患を除去した場合の伸びは、0歳では男7.38年、女6.22年、65歳では男5.93年、女5.04年、75歳では男4.49年、女4.21年、90歳では男1.93年、女2.22年となっている。(表8)

**表8 特定死因を除去した場合の平均余命の伸び(主要死因)の推移(0歳・65歳・75歳・90歳)**

(単位:年)

主要死因	年齢	男					女				
		平成19年	20年	21年	22年	23年	平成19年	20年	21年	22年	23年
悪性新生物	0歳	4.04	3.99	3.98	3.85	3.75	3.01	3.01	3.03	2.95	2.88
	65	3.12	3.09	3.11	3.00	2.93	2.03	2.03	2.07	1.99	1.94
	75	2.10	2.09	2.12	2.03	1.97	1.42	1.42	1.46	1.38	1.35
	90	0.60	0.59	0.63	0.56	0.55	0.45	0.45	0.48	0.43	0.41
心疾患 (高血圧性を除く)	0歳	1.55	1.54	1.55	1.48	1.46	1.65	1.64	1.65	1.53	1.47
	65	1.20	1.19	1.19	1.14	1.12	1.57	1.56	1.56	1.45	1.40
	75	1.02	1.01	1.02	0.96	0.94	1.47	1.47	1.48	1.37	1.32
	90	0.69	0.69	0.69	0.63	0.61	1.03	1.04	1.09	0.94	0.90
脳血管疾患	0歳	1.06	1.02	1.00	0.94	0.89	1.15	1.10	1.06	0.95	0.91
	65	0.88	0.84	0.82	0.76	0.72	1.05	1.00	0.96	0.85	0.82
	75	0.77	0.73	0.71	0.65	0.62	0.97	0.93	0.89	0.79	0.75
	90	0.45	0.41	0.41	0.35	0.34	0.64	0.61	0.59	0.50	0.47
肺炎	0歳	0.94	0.93	0.91	0.87	0.87	0.83	0.83	0.80	0.74	0.73
	65	0.98	0.97	0.95	0.90	0.89	0.84	0.83	0.81	0.74	0.73
	75	1.01	0.99	0.97	0.91	0.90	0.84	0.83	0.81	0.74	0.72
	90	0.91	0.86	0.83	0.74	0.72	0.71	0.70	0.69	0.59	0.57
悪性新生物、 心疾患及び 脳血管疾患	0歳	8.25	8.10	8.04	7.63	7.38	7.12	7.00	6.99	6.47	6.22
	65	6.64	6.51	6.48	6.13	5.93	5.86	5.75	5.75	5.25	5.04
	75	5.10	4.99	5.00	4.67	4.49	4.97	4.86	4.89	4.40	4.21
	90	2.32	2.24	2.30	2.00	1.93	2.77	2.72	2.78	2.34	2.22

注:平成22年は完全生命表による。